

人口減少率 9.3%に どう対抗するか



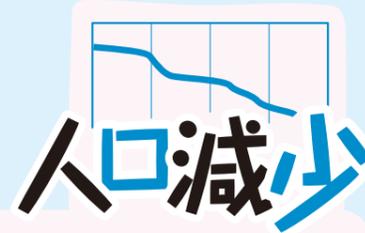
成羽の住宅造成地（鶴鳴保育園跡）

教育振興

高梁市の教育の将来像は？
今年度から小学校で30人以下学級を導入した。令和2年度から福地小学校は小規模特認校に、令和7年度には有漢に義務教育学校ができる。それぞれ特色を持った教育を打ち出しているの
で、保護者にしっかりアピール
できると考えている。

企業誘致

企業誘致の状況は？
最近5年間には新規の立地はなかったが、事業拡張に該当するものは3件あった。誘致を行った際、従業員の確保が難しいといわれる。有効求人倍率は高いものの、欲しい職種が市内に不足しているというミスマッチが起こっている。企業には固定資産税の6年間免除を打ち出していたが、それでは弱いということ、今は吉備中央町と同じ県内最高レベルの支援措置を行っている。



大きく減った要因は？
社会動態が前回調査では272人のマイナスだったが、今回は925人のマイナスとなり、これが大きく響いている。約4割が大学生の減少、人口の中で学生の占める割合が多く、影響が大きい。
地方交付税への影響は？
交付税算定は7月に行われるため、現時点（6月）では未確定だが、影響は避けられない。ただ、補正係数や段階補正という仕組みもあるので、人口の変更がそのまま反映されるわけではないため、人口減少ほどの落ち込みはないと推測している。

雇用対策

新たな雇用への対策は？
農業も非常に重要な観点だと思ふ。定住につながる儲かる農業のため、トマトやブドウなどを積極的に進めていく準備をしている。
現在、吉備中央町が掲げている「スーパーシティ構想」が、高梁市の人口増にも影響してくるだろうと思っている。雇用と住宅の確保について、高梁市、吉備中央町、美咲町の1市2町で事務的な会議が必要だと考えている。

国勢調査は、日本に住んでいるすべての人と世帯を対象とした重要な統計調査です。国勢調査で調べた人口は、地方交付税の算出や過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法、地方税法などに影響を与えます。令和2年（2020年）調査の速報値が6月に発表されました。

6月定例会では、発表された速報値に基づいて、市の政策について多くの議員が質問しました。ここでは、人口減少対策についての質疑をまとめました。

令和2年国勢調査速報値

人口	29,101人
男性	14,222人
女性	14,879人
2015年人口	32,075人
5年間の人口増減数	-2,974人
5年間の人口増減率	-9.27%
面積	546.99 km ²
人口密度	53.2人/km ²
世帯数	12,889世帯
2015年世帯数	13,481世帯
5年間の世帯増減数	-592世帯
5年間の世帯増減率	-4.39%

※スーパーシティ構想 AI（人工知能）などを活用する先端的なサービスを導入し、便利で暮らしやすいまちを実現していくもの。

定住対策

定住のための住宅整備は？
これまでも若者向け住宅の整備を進め、全て入居していた。定住につながるには、持ち家のための分譲宅地などにしっかりと取り組んでいく。
分譲地の予定は？
成羽町下原の鶴鳴保育園跡に予定している。高梁市の坪単価が高いことはある程度分析ができており、施策を考えていかなければならない。

空き家対策

空き家の現状は？
平成27年度から3年間かけて空き家の実態調査を行った。市内には1096棟の空き家があることを把握している。
住める空き家の活用が必要ではないか？
固定資産税の納付通知に空き家バンクの案内を入れている。ただ、あくまでも空き家は個人の財産なので、行政がどこまで踏み込んでいけるかを考えていかなければならない。



有漢工業団地